

「神戸学院総合リハビリテーション研究」

投稿規定

1. 「神戸学院総合リハビリテーション研究」(以下、本誌)は、原則として、該当年度に2回発行する。第1号には神戸学院大学総合リハビリテーション学会(以下、本学会)学術集会の抄録原稿を、第2号には投稿論文及び本学部の業績リストを主に掲載する。
2. 本誌の企画、編集、発行は本学会のジャーナル編集委員会(以下、編集委員会)が行う。
3. 本誌の投稿資格者は本学会の正会員、ならびに特別会員とする。なお、共著者は正会員の推薦を受ける者、正会員と共同研究を行ったものとする。ただし、依頼原稿はその限りではない。
4. 本研究に掲載される原稿の種類は以下の通りとする。
 - 1) 依頼原稿
 - 2) 原著論文
 - 3) 研究ノート
 - 4) 本学部及び本学会主催、共催の講演会の講演原稿
 - 5) 本学会主催学術集会の **proceedings** (事前提出)
 - 6) 本学部の業績リスト
 - 7) その他、編集委員会が必要と認める記事
5. 投稿は、他誌に未発表の論文に限る。二重投稿の定義については、規定巻末に記載する。同一もしくは非常に類似した研究であり、重複もしくは二重投稿と見なされる恐れのある以前の発表や、同時に行っている投稿・寄稿論文がある場合、投稿者は投稿と同時に編集委員会にその論文を送付し、二重投稿ではないことを説明しなければならない。
6. 投稿内容となる研究は、それぞれの研究に対応した倫理基準を満たしている必要がある。研究倫理委員会等の承認が必要な研究の場合は、それぞれの倫理委員会の承認書類の複写を投稿時に提出しなければならない。
7. 投稿手続は以下の通りとする。
 - 1) **Microsoft Word** 等のソフトウェアで作成した電子ファイルを、編集委員会事務局のアドレス journal@reha.kobegakuin.ac.jp に提出する。
 - 2) 第2号の原稿提出締切は、発行前年の12月第一金曜日とする。
 - 3) 主に、原稿提出時に用いた電子メールアドレスを通じて、編集委員会は著者と連絡を行う。本学外から投稿を行う場合、昼間に連絡が取れる電話番号などを、編集委員会に伝えておくこと。
 - 4) 投稿票、ならびに原稿の著者、共著者が自筆署名した投稿同意書兼リポジトリ登録同意書を、原稿と同時に提出すること。
 - 5) 原稿の執筆要綱は別に定める。
8. 原著論文及び研究ノートの審査は以下の通りとする。
 - 1) 投稿論文の掲載の可否は編集委員会で決定する。
 - 2) 編集委員会が1原稿あたり2名の査読者を選定し依頼する。
 - 3) 査読の結果に基づいて、編集委員会が掲載の決定をする。
 - 4) 編集委員会によって返還された原稿は、指定された日までに再投稿することができる。
 - 5) 最終原稿の提出
査読を経た修正後の最終原稿は、使用ソフトで作成したデータと、PDF形式に変換した電子

データを、編集委員会事務局の電子メールアドレス journal@reha.kobegakuin.ac.jp に提出すること。なお、ファイル名には筆頭著者の名前を付けること。

9. 論文の別刷は1論文あたり50部までは無料とし、それ以上は著者負担とする。
10. 本誌に掲載された論文等の著作権（複製権及び公衆送信権を含む）は本学会に帰属する。
11. 本誌編集に関する事務は、編集委員会事務局及び学部長室が行う。
12. 原稿等の公開

冊子体での公開のほか、本学会のホームページ上に原稿の題目と全著者名を公開し、題目上に本学機関リポジトリへのハイパーリンクを設置する。ただし、本学機関リポジトリへの登録を拒否した原稿については、原稿の題目と全著者名は公開するが、当該ハイパーリンクは設置せず、その他のいかなる手段においても電子公開は行わない。なお、学部の業績リストについては投稿者の同意なく本学機関リポジトリに登録する。

二重投稿の定義

- ①他の学術誌・紀要・雑誌図書等（以下、他の学術誌等）に投稿・寄稿中の論文と同一内容もしくは極めて類似すると認められる論文を投稿した場合を二重投稿とみなす。この場合、単著・共著を問わない。
- ②他の学術誌等にて公表した論文または投稿・寄稿中の論文における同一のデータを、引用を明記することなく記載して投稿した場合も二重投稿とみなす。
- ③すでに公表した同一もしくは極めて類似すると認められる論文を他の言語で投稿した場合も、二重投稿とみなす。

二重投稿の例外

次項に該当する場合は、同一データを利用し、内容が類似であっても、二重投稿とはみなさない。

- ①その一部または全部が、学会もしくは研究会において発表されたもので、完全な論文の形ではなく、要旨集・抄録のような媒体に掲載されているもの。但し、要旨集・抄録の掲載が当該学会及び研究会において、論文とされている場合には二重投稿とみなす。
- ②学士・修士論文が出版・公表されていない場合、また、その学位を授与した大学の方針により当該大学の図書館等に一部が保管されている場合には公表に含めない。
- ③すでに公表されている著書・論文・科学研究費等の報告書等が、投稿論文中に適切な引用として示されている場合。

執筆要綱

1. 提出原稿の様式・提出先

原稿は、A4用紙1枚あたり、和文の場合は1行40字40行、欧文の場合は1行80字40行で作成した Microsoft Word 等の電子ファイルを編集委員会のアドレス journal@reha.kobegakuin.ac.jp に提出する。

2. 論文の種目と長さについて

原著論文については、図表、写真、文献、注釈等を含めて、上記A4用紙10枚以内とする。原著論文としては、内容が不足しているものを研究ノートとして扱う。研究ノートは同8枚以内とする。その他の原稿については、編集委員会または学術集会運営委員会が個別に定める。

3. タイトルページ

原稿には、題目・著者名・所属・要約・キーワードを記載したタイトルページを1枚目につける。これらの文字数は上述の枚数・文字数には含まない。

英文論文の場合、題目の1文字目と固有名詞の1文字目のみ大文字とし、他は小文字で記載する。

例

Phencyclidine alters regional concentrations of neuropeptide Y and peptide YY in rat brain

Dementia with Lewy bodies is associated with higher scores on the Geriatric Depression Scale than is Alzheimer's disease

要約は、和文は600字以内、欧文は200単語以内とする。

キーワードは5単語以内とする。

4. 文献の後に、和文では、英文の題目・著者名・所属・要約・キーワードを、英文では和文の題目・著者名・所属・要約・キーワードを付記する。その長さや様式は上記の「3. タイトルページ」のものに準じる。

5. 専門用語はできるだけ日本語表記とし、必要であれば初出箇所に両括弧書きでその英語表記を記入する。

6. 外国の人名・地名はカタカナ表記を避け、原語あるいは英語で記載する。人名には敬称を付けない。

7. 年号は西暦を原則とする。和暦等が必要な場合には両括弧書きで西暦を入れる。

8. 数字は算用数字を用いる。単位は原則として国際単位系（SI単位）を用いる。

長さ：m、質量：kg、時間：s、温度：℃、周波数 Hz 等。

9. 図表は、xlsx、pdf、jpg 等の一般的なファイル形式にしたものを、本文とは別のファイルとして、投稿時に上記メールアドレスに送付する。

10. 論文の様式は、

(1) 自然科学系の論文においては、

- I. 諸言 introduction
- II. 対象と方法 materials and methods
- III. 結果 results
- IV. 考察 discussion
- V. 結論 conclusion
- VI. 利益相反 conflict of interest
- VII. 謝辞 acknowledgement

VIII. 文献 reference

の様式に準ずる。

(2) 自然科学系の論文においても、必要がなければ、結論・利益相反・謝辞は省いても良い。

(3) 社会科学系の論文では、各分野の慣例に従う。

11. 本文に注釈を入れる場合は、本文の該当部分に、上付き小文字で本文での引用順に、^{注1)}^{注2)}...と入れられる。各注釈文については、文献の前に注1).....として記載する。

英文の場合は本文内には、*¹⁾*²⁾と、*・番号・)の順に上付き小文字で記載する。各注釈については文献の前に、*notes として、*1) *2)の様式で記載する。

12. 句点は「。」、読点は「、」を使用する。

13. 見出しの取り方

I. ...

A. ...

1. ...

a. ...

14. 文献の記載方法

(1) 文献の記載順序は引用順とする。本文内の同じ場所に複数の論文を引用する場合は、発表年次順(発表年次が早いものを先に記載する)とする。

(2) 文中の引用箇所には片括弧付の上付き小文字で番号を、¹⁾ ²⁾ と付す。

(3) 各文献の文末での記載方法

① 雑誌の場合 著者名. 表題. 誌名. 発行年; 巻(号): 始頁・終頁. (存在すれば, doi)

例 1. 神戸太郎, 学院花子, 学院一郎. 神戸学院大学における論文発表. 神戸学院大学総合リハビリテーション研究. 2020; 15(2): 201-220.

例 2. Sakai K, Maeda K, Okuyama S, et al. Phencyclidine alters regional concentrations of neuropeptide Y and peptide YY in rat brain. *Biol Psychiatry*. 1996; 40(12): 1246-54.

② 単行本の場合 著者名. 表題: 書名(編者名). 発行所. 所在地. 発行年. 始頁・終頁.

例 3. 神戸太郎, 学院花子. 社会からみた理学療法: 理学療法体系 14 社会学と理学療法(学院一郎編). 神戸学院大学出版. 神戸. 2012. 78-89.

例 4. Larhammar D, Soderberg C, Blomqvist AG. Evolution of the neuropeptide Y family of peptide: The biology of neuropeptide Y and related peptides (Ed Colmers WF and Wahlestedt C) Human Press. Totowa, New Jersey. 1993. 1-41.

③ インターネット上の文献の場合、「発表者名. 題目. URL (最終閲覧日)」の書式で記載する。

④ 共著者が多数の場合は筆頭著者を含めて3名まで連記し、後は“ら”、“et al.”を付す。

⑤ 英語論文に日本語の文献を記載する場合は、「(in Japanese)」を最後に付す。

15. 他者の著作権に帰属する資料及び図表を引用するときは、著者が複製権に帰属する及び公衆送信権の利用許可申請を行い、出典を明記する。

(本票は PDF ファイル形式に変換し、送信してください)

作成日： 年 月 日

1. 原稿の種類別 (あてはまるチェックボックスをクリック)

<input type="checkbox"/> 原著論文	<input type="checkbox"/> 研究ノート	<input type="checkbox"/> 講演原稿	<input type="checkbox"/> 学会集 proceedings	<input type="checkbox"/> その他
-------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--	------------------------------

2. 論文題名・キーワード (和文)

論文題名	
キーワード	

3. 筆頭著者の氏名・所属・連絡先

氏名		所属機関	
電話番号		E-mail アドレス	

4. 共著者全員の氏名

氏名	
----	--

5. 査読者の推薦 (総合リハビリテーション学部教員の中から 2 名以内; 無ければ空欄でも可)

氏名	
----	--

6. 二重投稿に関する申告 (チェックボックスをクリック; 二重投稿の定義については、投稿規定を参照すること)

確認欄 <input type="checkbox"/>	本論文は、神戸学院総合リハビリテーション研究投稿規定による二重投稿にはあたりません。
---------------------------------	--

7. 利益相反 (COI) に関する申告 (あてはまるチェックボックスをクリック)

本論文の内容に関し、申告すべき利益相反は、	<input type="checkbox"/> 存在しません。 <input type="checkbox"/> 存在します。
-----------------------	---

【投稿前のチェックポイント】

- 本票のPDF化 : 「名前を付けて保存」→「ファイルの種類」→「PDF」
- 倫理委員会の承認書類 : 承認が必要な研究の場合は、承認書類の複写ファイルを添付してください。
- 投稿同意書 : 別紙、「筆頭著者ならびに共著者の同意書」の複写ファイルを添付してください。

神戸学院大学憲章

わたしたちは、神戸学院大学をさらに発展させるため、ここに憲章を定め、一人ひとりが自覚と責任をもってこれを実践いたします。

○ 建学の精神

『真理愛好・個性尊重』

学びと知の研究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重する。

○ 神戸学院大学の目指す姿

- 自己の可能性を引き出すことのできる大学
- 社会をリードする活力に富んだ人材を育成する大学
- 知を創造し、発信する大学
- 地域の住民・産業界と共に進化する大学
- 教育の本質を追究し、人権を尊重する大学

○ 教育基本理念

- 生涯にわたる人間形成の基点となりうる教育
- 生涯にわたり高い専門性を修得できる教育
- グローバルな視点から地域社会の多様なニーズに対応できる教育

○ 運営基本理念

- 中長期計画に基づいた健全で安定した運営
- 学生の修学活動とそのための環境整備を優先した運営
- 意思決定プロセスの透明化と情報の共有化を重視した運営
- 学生や教職員等の意見、第三者の評価を反映した運営

○ 神戸学院大学が期待する教職員像

【期待する教育職員像】

- 建学の精神を遵守し、教学に反映する人
- 学生・教職員間の意思疎通に努め、相互理解を深めようとする人
- 学生の悩みやニーズに向き合い、真摯に相談相手になろうとする人
- 学生の知的好奇心を触発し、将来の進路を示そうとする人
- 社会的常識や倫理観を備え、良識を育もうとする人
- よりよい教育活動と研究活動に努めようとする人
- 自らの知見を大学運営や社会貢献に活かそうとする人
- 大学は学生が主体的に学ぶ場であることを認識できる人

【期待する事務職員像】

- 建学の精神を遵守し、教学支援に反映する人
- 学生・教職員間の意思疎通に努め、相互理解を深めようとする人
- 学生の立場に立った学生支援ができる人
- 自ら考え、主体的・積極的に業務を遂行しようとする人
- 担当職務のスペシャリストになろうと自己研鑽する人
- 担当職務に限らず、周囲の手助けになろうと努める人
- 大学は学生が主体的に学ぶ場であることを認識できる人

2007年10月25日